

JR 小樽駅本屋およびプラットホーム

小樽駅は 1903 年に開業し、翌年には北海道最南端の町である函館までの路線が開通しました。20 世紀初めには、小樽駅に降り立つと、数十隻の帆前船や汽船が港に停泊し、舳が岸まで荷物や乗客を運んでいるのが見えていました。

現在の駅舎は鉄筋コンクリート造りで、1934 年に完成しました。左右対称に配置された入り口ホールのアールデコ風デザインは当時の大きな駅舎によく使われていました。

駅舎正面にある背の高い 6 つの窓から差し込む自然光と、地元のガラスメーカーである北一硝子により寄贈された 333 個のガラス製ランタンが相まって、入り口ホールは光で溢れています。現在は、これらランタンには電力が供給されていますが、北一硝子が 1901 年に作製を始めた初代の手吹きガラスのオイルランプに似せてあります。

4 番ホームは 1934 年に行われた改造や、エスカレーターや追加の照明などの最近の増設を除けば、1903 年当時の姿とほとんど変わっていません。4 番ホームの北の端に人気俳優石原裕次郎（1934 年–1987 年）が長期テレビドラマの撮影のために小樽を訪れたのを記念して、額装された等身大パネルが置かれています。石原裕次郎は神戸で生まれましたが、幼少期の数年を小樽で過ごし、その後、頻繁に小樽を訪れていました。石原裕次郎は 1978 年に撮影されたこのパネルの中で 4 番ホームに立っており、この 4 番ホームは、地元では「裕次郎ホーム」として知られています。